

## シラバス

科目名	基礎ゼミ		担当者名	アジュナン 奈緒美		
学科	建築学科		授業方法	ゼミ		
認定単位	4単位	開講期	必選	授業時間数	72時間	
開講学年	1学年	必・選				
授業目的	学科で身につけた専門性と個々のアイデアを活かしながらゼミとしてのグループワークでのモノづくりのプロセスを学ぶことを目的とする。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	前期:個々のアイデア出しとチームビルディング 後期:チームでのモノづくりを提案および実施					
授業概要	前期:与えられた課題に個々がアイデアを提案(頭を柔軟に) チームビルディングとして世界のモノづくりを探求 後期:具体的なテーマに対してグループ提案 実際に制作活動					
授業計画表	授業内容			授業内容		
	1		19			
	2		20			
	3		21			
	4		22			
	5		23			
	6		24			
	7		25			
	8		26			
	9		27			
	10		28			
	11		29			
	12		30			
	13		31			
	14		32			
	15		33			
	16		34			
	17		35			
	18		36			
成績割合	テスト		学習FB方法			
	学習態度・出席率					
	レポート		成績評価			
	合計	100%				
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>					
講師プロフィール						

## シラバス

科目名	CAD実習		担当者名	高井 英光	
学 科	建築学科		授業方法	実習	
認定単位	1.5単位	開講期	必修	授業時間数	54時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	2次元CADである「JWW」を使用し、図面読取および基本操作を学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	CAD検定3級およびCAD検定2級合格レベルの技術を習得させる。				
授業概要	「階段平面図」・「通り芯・寸法・通り芯記号」・「柱・壁・間仕切壁」などおよび「平面詳細図」・「立面図」をCADを利用し作成させる。				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション	19	平面詳細図Aの作図1	
	2	JWW-CADの基本操作1	20	平面詳細図Aの作図2	
	3	JWW-CADの基本操作2	21	平面詳細図Aの作図3	
	4	JWW-CADの基本操作3	22	立面図Aの作図1	
	5	「階段平面図」の作図1	23	立面図Aの作図2	
	6	「通り芯・寸法・通り芯記号」の作図1	24	立面図Aの作図3	
	7	「柱・壁・間仕切壁」の作図1	25	平面詳細図Bの作図1	
	8	「壁と窓」の作図1	26	平面詳細図Bの作図2	
	9	「階段平面図」の作図2	27	平面詳細図Bの作図3	
	10	「通り芯・寸法・通り芯記号」の作図2	28	立面図Bの作図1	
	11	「柱・壁・間仕切壁」の作図2	29	立面図Bの作図2	
	12	「壁と窓」の作図2	30	立面図Bの作図3	
	13	「階段平面図」の作図3	31	平面詳細図Cの作図1	
	14	「通り芯・寸法・通り芯記号」の作図3	32	平面詳細図Cの作図2	
	15	「柱・壁・間仕切壁」の作図3	33	平面詳細図Cの作図3	
	16	「壁と窓」の作図3	34	立面図Cの作図1	
	17	CAD3級総合問題	35	立面図Cの作図2	
	18	確認テスト	36	確認テスト・まとめ	
成績割合	テスト	10%	学習FB方法	各課題ごとに図面をチェックし、正しい作図を指導する。 前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	60%	成績評価	出席率80%以上S:90~100点、A:80~89、B:70~79点、C:60~69点、D:59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>30% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	一級建築士事務所所長 一級建築士 大学院 博士課程終了 全日本建築士会 1級建築士講座講師				

## シラバス

科目名	建築デザイン I		担当者名	成田 健志	
学科	建築学科		授業方法	演習	
認定単位	1.5単位	開講期	必修	授業時間数	54時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	空間の基礎デザインを模型や実物の作品制作を通して学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	空間を最大限利用する方法を考え、限られた材料で作られるデザインの可能性を検討し、制作をおこなう。				
授業概要	建築のデザインが2次元(スケッチや図面)と3次元(模型、実物の空間)を行き来する作業の中から出来上がっていくプロセス・方法を作品制作を通して学ぶ。3mの立方体の空間を1/10スケールの模型で制作し、空間を最大限利用する方法を考え、かたちにする。「ランプシェード」では、限られた材料で作られるデザインの可能性を検討し、制作をおこなう。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション	19		
	2	オリエンテーション	20		
	3	オリエンテーション	21		
	4	フリーハンドスケッチと平行図法	22		
	5	平行図法と1点透視図法	23		
	6	1点透視図法と2点透視図法	24		
	7	空間のデザイン1(店舗デザイン)	25		
	8	空間のデザイン2(アイソメ、1点パース)	26		
	9	空間のデザイン3(2点パース)	27		
	10	建築のデザイン1「公園の休憩所」	28		
	11	建築のデザイン2(模型制作)	29		
	12	建築のデザイン3(模型制作)	30		
	13	中間プレゼンテーション(模型及びコンセプト)	31		
	14	プレゼンテーションボード(レイアウト、構成)	32		
	15	プレゼンテーションボード(レイアウト、構成)	33		
	16	空間のデザイン1「通路空間」	34		
	17	建築のデザイン2(模型制作)	35		
	18	プレゼンテーションボード(レイアウト、構成)	36		
成績割合	テスト	60(作品評価)	学習FB方法		
	学習態度・出席率	40%			
	レポート		成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>60 R<<実働実践型学習>>20 A<<主体的参加型学習>>20 G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	美術大学で建築を学びました。設計事務所勤務時に美術館・博物館などを担当しました。その後、集合住宅やオフィスなどのデザイン協力や、大学内のキャンパス計画・設計チームに参加しました。住宅・別荘の設計や、室内・外部空間のデザインなどを行っています。				

## シラバス

科目名	基礎デザイン		担当者名	成田 健志	
学科	建築学科		授業方法	演習	
認定単位	1.5単位	開講期	必修	授業時間数	54時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	空間の基礎デザインを模型や実物の作品制作を通して学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	空間を最大限利用する方法を考え、限られた材料で作られるデザインの可能性を検討し、制作をおこなう。				
授業概要	建築のデザインが2次元(スケッチや図面)と3次元(模型、実物の空間)を行き来する作業の中から出来上がっていくプロセス・方法を作品制作を通して学ぶ。3mの立方体の空間を1/10スケールの模型で制作し、空間を最大限利用する方法を考え、かたちにする。「ランプシェード」では、限られた材料で作られるデザインの可能性を検討し、制作をおこなう。				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション	19		
	2	オリエンテーション	20		
	3	オリエンテーション	21		
	4	紙と鉛筆によるスケッチ、模型製作の基礎	22		
	5	スチレンボードによる模型制作(空間模型)	23		
	6	スチレンボードによる模型制作(空間デザイン)	24		
	7	スケッチパース、空間のデザイン	25		
	8	グリッドパース、空間のデザイン	26		
	9	木材による模型制作(椅子の模型)	27		
	10	模型による空間構成(立体で考える)	28		
	11	模型による空間構成(コンセプトを考える)	29		
	12	模型による空間構成(素材を考える)	30		
	13	模型による空間構成(仕上げ)	31		
	14	模型による空間構成(写真撮影)	32		
	15	作品をスケッチパースとして描く	33		
	16	光る立体(ランプシェード)エスキス、紙による立体演習	34		
	17	光る立体(ランプシェード)制作、パターンによる構成演習	35		
18	作品撮影、プレゼンテーションボード作成(空間デザイン・ランプシェード)	36			
成績割合	テスト	60(作品評価)	学習FB方法		
	学習態度・出席率	40%			
	レポート		成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>60 R<<実働実践型学習>>20 A<<主体的参加型学習>>20 G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	美術大学で建築を学びました。設計事務所勤務時に美術館・博物館などを担当しました。その後、集合住宅やオフィスなどのデザイン協力や、大学内のキャンパス計画・設計チームに参加しました。住宅・別荘の設計や、室内・外部空間のデザインなどを行っています。				

## シラバス

科目名	2×4建築構造		担当者名	砂子 政仁	
学 科	建築学科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開講期	必修	授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	2×4(枠組み壁工法)工法の設計の考え方、及び構造フレームの寸法、使用場所、考え方を学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	テキストを使った座学を踏まえ、その上で2×4(枠組み壁工法)工法のルールに沿って住宅のプランを考えさせる。またハウスメーカーの設計図書及び構造等の画像を使い、更に理解を深めさせる。				
授業概要	テキスト、動画、画像を使い基本のルール等と在来工法との考え方の違いを教え、頭(座学)と手(設計ワーク)を動かして学んでいく。テキストは毎回8ページ(Key word 4項目)進めていく。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	テキスト他を使う講義(1)	19		
	2	テキスト他を使う講義(2)	20		
	3	テキスト他を使う講義(3)	21		
	4	テキスト他を使う講義(4)	22		
	5	テキスト他を使う講義(5)	23		
	6	テキスト他を使う講義(6)	24		
	7	テキスト他を使う講義(7)	25		
	8	テキスト他を使う講義(8)+住宅プランニング(1)	26		
	9	テキスト他を使う講義(9)+住宅プランニング(2)	27		
	10	テキスト他を使う講義(10)+住宅プランニング(3)提出日	28		
	11	テキスト他を使う講義(11)	29		
	12	テキスト他を使う講義(12)	30		
	13	テキスト他を使う講義(13)	31		
	14	テキスト他を使う講義(14)	32		
	15	テキスト他を使う講義(15)	33		
	16	期末テスト対策、テキストその他振り返る。	34		
	17	期末テスト実施	35		
	18	期末テスト返し、講評その他。	36		
成績割合	テスト	80%	学習FB方法	成績評価 出席率80%以上課題提出100%、S 90~100点、 A 80~89点、B 79~70点、C 60~69点、D 59点 以下(不可)	
	学習態度・出席率	20%			
	レポート		成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	一級建築士、介護福祉士として設計事務所を主宰する傍ら、専門学校や建築士予備校及び介護現場等で活動する。				

シラバス

科目名	一般構造		担当者名	生平 信雄	
学 科	建築学科		授業方法	講義	
認定単位	4単位	開講期	必修	授業時間数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造を中心に、構造の原理や骨組みの構成について学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	木構造については、内外の仕上げの構造についても学ぶ。さらに、建築構造に関する基礎的なことばについては、十分に理解度出来ることを目標とする。				
授業概要	一般構造で学ぶ用語や知識は、インテリアコーディネーターを目指すうえで設計、施工など他の科目の基本となるものである。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	建築構造の概要 構造の分類と形	19	RC構造の原理と特徴1 構造形式	
	2	建物に作用する力1	20	RC構造の原理と特徴2 基礎の構造	
	3	建物に作用する力2	21	RC構造の原理と特徴3 構造計画の概要 柱の構造と配筋	
	4	木構造 在来構法、枠組壁工法、ログハウス、大規模木造建築1	22	RC構造の原理と特徴4 はりの構造と配筋	
	5	木構造 在来構法、枠組壁工法、ログハウス、大規模木造建築2	23	RC構造の原理と特徴5 スラブおよび壁の構造と配筋	
	6	木構造 在来構法、枠組壁工法、ログハウス、大規模木造建築3	24	RC構造の原理と特徴6 RC構造演習	
	7	木構造 在来構法、枠組壁工法、ログハウス、大規模木造建築4	25	鉄骨構造の原理と特徴1 構造形式	
	8	木構造の特徴と種類1 軸組各部の名称 継ぎ手と仕口	26	鉄骨構造の原理と特徴2 接合方法	
	9	木構造の特徴と種類2 軸組各部の名称 継ぎ手と仕口 壁・床・天井 屋根・小屋組	27	鉄骨構造の原理と特徴3 高力ボルト接合 溶接	
	10	木構造の特徴と種類3 軸組各部の名称 継ぎ手と仕口 壁・床・天井 屋根・小屋組	28	鉄骨構造の原理と特徴4 はり、柱の構造	
	11	木構造の特徴と種類4 軸組各部の名称 継ぎ手と仕口 壁・床・天井 屋根・小屋組	29	鉄骨構造の原理と特徴5 柱脚、基礎	
	12	木構造の特徴と種類 耐震設計の基礎1	30	鉄骨構造の原理と特徴6 耐火被覆	
	13	木構造の特徴と種類 耐震設計の基礎2	31	鉄骨構造の原理と特徴7 構造形式	
	14	2x4の概要1 各部の構造と材料 各部の構造と材料 ログハウス 大規模木造建築	32	鉄骨構造の原理と特徴8 接合方法	
	15	2x4の概要2 各部の構造と材料 各部の構造と材料 ログハウス 大規模木造建築	33	鉄骨構造の原理と特徴9 高力ボルト接合	
	16	2x4の概要3 各部の構造と材料 各部の構造と材料 ログハウス 大規模木造建築	34	鉄骨構造の原理と特徴10 溶接	
	17	木造の内壁、天井、床の構造1 下地と仕上げの構造 書院、床の間の構造	35	その他の構造1 鉄骨鉄筋コンクリート構造	
18	木造の内壁、天井、床の構造2 下地と仕上げの構造 書院、床の間の構造	36	その他の構造2 コンクリートブロック造		
成績割合	テスト	70%	学習FB方法	成績評価 出席率80% S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート				
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50 R<<実働実践型学習>>50 A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	建築系実務と高等教育機関講師歴30年以上 一級建築士 一級施工管理技士 インテリアコーディネーター				

## シラバス

科目名	材料工学		担当者名	外塚 浩幸	
学 科	建築学科		授業方法	講義	
認定単位	4単位	開講期	必修	授業時間数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	建築材料の規格や物理的性質を理解する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	建築材料の規格や物理的性質は一般構造を理解する上で重要である。特に近年、構造や仕上りの材料が変化しており、建築材料に関する知識も重要性を増している。既存の材料の知識習得に加え、新しい建材開発の背景についても触れ、建築実務への意識を涵養する。				
授業概要	前期は構造材の種類とその性質、用途について具体例を挙げながら解説する。後期は仕上げ材および性能材について建築の各部位に必要な性能との関連について解説する。				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	材料工学のガイダンス	19	レンガ・タイル	
	2	建築材料の歴史と種類、用途、環境と建材について	20	瓦 石材	
	3	木材1 木材の種類と主な性質1	21	土壁・左官材料	
	4	木材2 木材の種類と主な性質2	22	ガラス	
	5	木材3 構造材の規格と強度1	23	下地用ボード類 石こうボード、ケイ酸カルシウム板等	
	6	木材4 構造材の規格と強度2	24	塗料・接着剤・充填剤	
	7	金属1 鋼材の種類と主な性質1	25	防水材	
	8	金属2 鋼材の種類と主な性質2	26	吸音材・遮音材	
	9	金属3 鋼材の接合	27	断熱材、防火材・耐火材	
	10	金属4 鉄以外の金属(アルミニウム、銅、チタン 金属加工品)	28	木構造と新しい材料1	
	11	コンクリート1 コンクリートとその構成材料	29	木構造と新しい材料2	
	12	コンクリート2 セメントの性質	30	木構造と新しい材料3	
	13	コンクリート3 骨材の性質	31	鉄骨造と新しい材料1	
	14	コンクリート4 フレッシュコンクリートの性質	32	鉄骨造と新しい材料2	
	15	コンクリート5 コンクリートの硬化とその性質	33	鉄筋コンクリート造と新しい材料1	
	16	木材5 仕上げ材1	34	鉄筋コンクリート造と新しい材料2	
	17	木材6 仕上げ材2	35	膜構造と新しい材料	
	18	木材7 エン지니어ウッド	36	まとめ	
成績割合	テスト	20%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	40%			
	レポート	40%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>40% A<<主体的参加型学習>>30% G<<海外体感型学習>>—				
講師プロフィール	一級建築士事務所主宰 建築実務と建築系高等教育機関講師歴30年以上 建築適合判定資格者 一級建築士 二級建築士 インテリアコーディネーター				

## シラバス

科目名	構造力学		担当者名	和足 安男	
学 科	建築学科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	6単位 1学年	開講期 必・選	必修	授業時間数	108時間
授業目的	建築物の構成と力学的な構造物の種類を学び、構造物を力学的に解析し設計する「力」を養成することを目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	建築物に作用する様々な「力」と、それが建築物に与える影響について理解をすすめることを達成目標とする。				
授業概要	建築物の構成及び構造物の種類・名称等については「一般構造」の科目で学ぶので、主として構造物の骨格(骨組)について力学的に学習する。 「構造力学」系の授業と建築士試験との関連に注意し、基礎的知識の確認をおこなう。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	力の合成分解・モーメント1	19	トラスの解法1	
	2	力の合成分解・モーメント2	20	トラスの解法2	
	3	荷重と支点反力1	21	トラスの解法3	
	4	荷重と支点反力1	22	トラスの解法4	
	5	片持ち梁の反力計算1	23	図心・断面2次モーメント・断面係数 曲げ応力度1	
	6	片持ち梁の反力計算2	24	図心・断面2次モーメント・断面係数 曲げ応力度2	
	7	単純梁における集中荷重とせん断力図・曲げモーメント図1	25	図心・断面2次モーメント・断面係数 曲げ応力度3	
	8	単純梁における集中荷重とせん断力図・曲げモーメント図2	26	せん断応力度 許容応力度1	
	9	片持ち梁における集中荷重とせん断力図・曲げモーメント図1	27	せん断応力度 許容応力度2	
	10	片持ち梁における集中荷重とせん断力図・曲げモーメント図2	28	せん断応力度 許容応力度3	
	11	単純梁における等分布荷重とせん断力図・曲げモーメント図1	29	許容曲げモーメント 座屈1	
	12	単純梁における等分布荷重とせん断力図・曲げモーメント図2	30	許容曲げモーメント 座屈2	
	13	片持ち梁における等分布荷重とせん断力図・曲げモーメント図1	31	許容曲げモーメント 座屈3	
	14	片持ち梁における等分布荷重とせん断力図・曲げモーメント図2	32	たわみ 不静定構造	
	15	ラーメンの集中荷重とせん断力図・曲げモーメント図1	33	静定構造の崩壊と全塑性モーメント1	
	16	ラーメンの集中荷重とせん断力図・曲げモーメント図2	34	静定構造の崩壊と全塑性モーメント2	
	17	3ヒンジラーメンの集中荷重とせん断力図・曲げモーメント図1	35	不静定構造の崩壊と全塑性モーメント1	
18	3ヒンジラーメンの集中荷重とせん断力図・曲げモーメント図2	36	不静定構造の崩壊と全塑性モーメント2		
成績割合	テスト	80%	学習FB方法	成績評価 出席率80%以上	
	学習態度・出席率	20%			
	レポート		成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>100% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	高等教育機関講師歴30年以上 一級建築士 一級施工管理技士				



## シラバス

科目名	建築史		担当者名	古川 依子	
学 科	建築学科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開 講 期	必修	授 業 時 間 数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	日本と西洋の建築・インテリアの歴史を学ぶ				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	日本と西洋の建築史、近代の建築やインテリアの歴史を、広い視野で通観し、日本建築の良さや他国の独自性の理解を深める。 建築士、インテリアコーディネーター資格試験に必要な歴史分野の基礎知識を習得する。				
授業概要	日本建築史、西洋建築史、近代建築史について、テキスト「建築と都市の歴史」、チームス内の資料、まとめプリント、などを使用し、ハイブリッド形式で授業を行う。 パワーポイントを用い、具体的な理解を深めるため、図や写真を効果的に取り入れる。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	講義概要 日本建築史1(和風について・原始の建築と神社)	19		
	2	日本建築史2(仏教建築の渡来・和様の誕生)	20		
	3	日本建築史3(様式の発生と融合・中世の住宅)	21		
	4	日本建築史4(書院造と武士住宅・茶室と数寄屋)	22		
	5	日本建築史5(町家と農家他・江戸時代の寺社境内)	23		
	6	中間試験(日本建築史)・西洋建築史Ⅱ(ヨーロッパ建築の曙)	24		
	7	西洋建築史1(古代ギリシ古代古代ローマ)	25		
	8	西洋建築史2(教会建築の誕生・ビザンツ、イスラーム、ロマネスク)	26		
	9	西洋建築史3(ゴシックと中世都市・ルネサンスへ)	27		
	10	西洋建築史4(古典主義の興隆・バロックの展開)	28		
	11	西洋建築史5(フランスのバロック・古典主義の成熟)	29		
	12	西洋建築史6/近代建築史1(市民革命、市民の台頭・産業革命と博覧会)	30		
	13	近代建築史2(日本の近代化・様式建築の受容・新構造の導入)	31		
	14	近代建築史3(住宅の変化・建築の戦中戦後・日本の建築家)	32		
	15	近代建築史4(西洋のデザイン運動)	33		
	16	近代建築史5(モダニズム・現代の建築)	34		
	17	学期末試験(西洋建築史・近代建築史)	35		
18	学期末試験解説(西洋建築史・近代建築史)	36			
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	成績評価 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	学習態度・出席率	20%			
	レポート	20%			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>70% R<<実働実践型学習>>30% A<<主体的参加型学習>>60% G<<海外体感型学習>>60%				
講師プロフィール	高等教育機関での美術系科目及びインテリア関連科目教育歴30年以上				

## シラバス

科目名	居住学		担当者名	吉澤 千鶴子	
学 科	建築学科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開講期	必修	授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	変化する社会環境の中で、ともに変化する日常の暮らしを通して、これからの住宅のありかたを考える力を身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	住宅(住まい)は生活行為の集まりで成り立っていて、その生活は環境によって大きく変化すること体系的に理解する。				
授業概要	「私たちの住居学」というテキストに沿って、「サステナブル社会」「バリアフリーデザイン」「ユニバーサルデザイン」「ノーマラゼーション」などをキーワードに住まいと暮らしを学ぶ。 自らの暮らしを通して思考する課題に取り組む機会も設ける。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション1	19	住まいの維持管理①	
	2	サステナブル社会の住まい①	20	住まいの維持管理②	
	3	サステナブル社会の住まい②	21	住まいの維持管理③	
	4	サステナブル社会の住まい③	22	住まいの維持管理④	
	5	サステナブル社会の住まい④	23	住生活のための人間工学①	
	6	住まいを取り巻く環境①	24	住生活のための人間工学②	
	7	住まいを取り巻く環境②	25	住生活のための人間工学③	
	8	住まいを取り巻く環境③	26	住生活のための人間工学④	
	9	住まいを取り巻く環境④	27	住まいに必要な環境調整①	
	10	住まいを取り巻く環境⑤	28	住まいに必要な環境調整②	
	11	住まいを取り巻く環境⑥	29	住まいに必要な環境調整③	
	12	住生活のあり方とその変遷①	30	住まいに必要な環境調整④	
	13	住生活のあり方とその変遷②	31	子育て家族の住まい、シングル住まい①	
	14	住生活のあり方とその変遷③	32	子育て家族の住まい、シングル住まい②	
	15	住生活のあり方とその変遷④	33	子育て家族の住まい、シングル住まい③	
	16	住生活のあり方とその変遷⑤	34	子育て家族の住まい、シングル住まい④	
	17	住生活のあり方とその変遷⑥	35	まとめ1	
	18	前期のまとめ	36	まとめ2	
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	成績評価 出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	学習態度・出席率	25%			
	レポート	25%			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>70% R<実働実践型学習>30% A<主体的参加型学習> G<海外体感型学習>				
講師プロフィール	大学卒業後、建築設計事務所勤務を経て、吉澤ハウスプランニング主宰。 住宅設計に携わりながら、工学系専門学校非常勤講師として設計の手法を指導。また大学の公開講座等で、2級建築士や福祉住環境コーディネーターなど建築系の資格取得支援を行う。教材作成、出版、通信講座の添削等も担当。				

シラバス

科目名	ユニバーサルデザイン概論		担当者名	吉澤 千鶴子	
学 科	建築学科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開 講 期	必修	授 業 時 間 数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	福祉住環境コーディネーター2級試験合格のための対策講座				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	建築やインテリアに関わる職種に必携の福祉住環境コーディネーター2級を在学中に取得することを目標に定めている。				
授業概要	東京商工会議所から発行されている公式テキストに沿って、内容を解説し、演習を繰り返しながら知識を定着させていく。単なる暗記ではなく、学生が「福祉住環境」のありかたを自ら考えることができるようになるような指導を心がける。居住学テキストの中にある福祉住環境に関する内容にもふれる。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション1	19	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備1 脳血管障害	
	2	高齢者・障害者とバリアフリーデザイン	20	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備2 廃用症候群	
	3	誰にも優しいユニバーサルデザイン	21	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備3 骨折	
	4	生活行為別の福祉住環境整備の手法1 外出①	22	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備4 認知症	
	5	生活行為別の福祉住環境整備の手法2 外出②	23	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備5 関節リウマチ	
	6	生活行為別の福祉住環境整備の手法3 屋内移動①	24	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備6 パーキンソン病	
	7	生活行為別の福祉住環境整備の手法4 屋内移動②	25	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備7 糖尿病	
	8	生活行為別の福祉住環境整備の手法5 排泄	26	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備8 心筋梗塞	
	9	生活行為別の福祉住環境整備の手法6 入浴	27	障害別にみた福祉住環境整備1 肢体不自由	
	10	生活行為別の福祉住環境整備の手法7 更衣	28	障害別にみた福祉住環境整備2 内部障害	
	11	生活行為別の福祉住環境整備の手法8 調理と食事	29	障害別にみた福祉住環境整備3 視覚障害	
	12	生活行為別の福祉住環境整備の手法9 団らん	30	障害別にみた福祉住環境整備4 聴覚・言語障害	
	13	生活行為別の福祉住環境整備の手法10 就寝	31	障害別にみた福祉住環境整備5 認知・行動障害	
	14	高齢者の心理機能と特性いろいろ	32	事例研究1	
	15	いろいろな高齢者の住まい	33	事例研究2	
	16	自立支援のための住居改善の必要性と支援体制	34	授業のまとめ1	
	17	自立支援のための住居改善のポイント	35	授業のまとめ2	
	18	高齢者・障害者とバリアフリーデザイン	36	授業のまとめ3	
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	成績評価 出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	20%			
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>100% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	大学卒業後、建築設計事務所勤務を経て、吉澤ハウスプランニング主宰。住宅設計に携わりながら、工学系専門学校非常勤講師として設計の手法を指導。また大学の公開講座等で、2級建築士や福祉住環境コーディネーターなど建築系の資格取得支援を行う。教材作成、出版、通信講座の添削等も担当。				

## シラバス

科目名	リフォーム概論		担当者名	砂子 政仁	
学科	建築学科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開講期		授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選	必修		
授業目的	現代社会におけるリフォームの必要性について学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	現代社会に欠けている共用のパブリックスペースやバリアフリースペースについて、実測並びにアセスメントを行い、リフォームプラン(模型含む)提案していく。				
授業概要	<p>本年は課題数2～3を予定。          課題1、A・Bの2グループに分け、これからのパブリックトイレを提案する。          課題2、片麻痺の人物を想定し、快適に暮らせるバリアフリーリフォームを提案する。          課題3、自宅の使いにくい部分を検証し、快適に暮らせるリフォームを提案する。          各々の課題のプレゼンテーションの実施。</p>				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	ガイダンス、建築のここからはなし、着色のルール説明、課題1概略説明、即日課題(残り宿題)。	19		
	2	課題1、実測及びグループごとのアセスメント、作業ワークスタート。	20		
	3	作業ワーク	21		
	4	作業ワーク	22		
	5	作業ワーク	23		
	6	作業ワーク	24		
	7	作業ワーク	25		
	8	作業ワーク(模型を含めパネルを完成させる)	26		
	9	提出日、A・Bグループによるプレゼンテーション。	27		
	10	課題2、概要説明(個人課題)、作業ワークスタート。	28		
	11	作業ワーク	29		
	12	作業ワーク	30		
	13	作業ワーク	31		
	14	課題2、提出日、完成プレゼンテーション。	32		
	15	課題3、概要説明(個人課題)作業ワークスタート。	33		
	16	作業ワーク	34		
	17	作業ワーク	35		
	18	課題3、提出日、完成プレゼンテーション。	36		
成績割合	テスト		学習FB方法		
	学習態度・出席率	10%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上、課題提出率100%、S 90～100点、A 80～89点、B 79～70点、C 60～69点、D 59点不可	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	一級建築士、介護福祉士として設計事務所を主宰する傍ら、専門学校や建築士予備校及び介護現場等で活動する。				

## シラバス

科目名	インテリアデザイン概論		担当者名	古川 依子	
学 科	建築学科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開 講 期	必修	授 業 時 間 数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	インテリアの基礎知識及び、ビジュアルでの提案技術の習得。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	インテリアの基礎知識を学び、課題を通して適切なインテリアコーディネートをビジュアル的な方法で提案できる。				
授業概要	インテリアスタイル、配色、インテリアエレメントなどについての基礎知識の学習、図法としてアイソメの練習、ワンルームマンションのインテリアコーディネートを考えてアイソメ等で表現する。				
授 業 計 画 表	授 業 内 容			授 業 内 容	
	1	講義概要他 インテリアの基礎知識1(インテリアスタイル)	19		
	2	インテリアの基礎知識2(色彩)	20		
	3	インテリアの基礎知識3(インテリアエレメント①-素材)	21		
	4	インテリアの基礎知識4(インテリアエレメント②-家具・WT)	22		
	5	インテリアの基礎知識5(インテリアエレメント③-照明・表現技法)	23		
	6	アイソメの練習1(平面図のレイアウトからアイソメに立ち上げる・家具の寸法)	24		
	7	アイソメの練習2(平面図のレイアウトからアイソメに立ち上げる・家具の寸法)	25		
	8	アイソメの練習3(平面図のレイアウトからアイソメに立ち上げる・家具の寸法)	26		
	9	アイソメの練習4(家具)	27		
	10	アイソメの練習5(家具・窓装飾・照明)	28		
	11	アイソメの練習6(窓装飾・照明)	29		
	12	演習課題 一人暮らしのインテリアコーディネート1	30		
	13	演習課題 一人暮らしのインテリアコーディネート2	31		
	14	演習課題 一人暮らしのインテリアコーディネート3	32		
	15	演習課題 一人暮らしのインテリアコーディネート4	33		
	16	演習課題 一人暮らしのインテリアコーディネート5	34		
	17	演習課題 一人暮らしのインテリアコーディネート6 小テスト	35		
18	演習課題 一人暮らしのインテリアコーディネート7 プレゼンテーション	36			
成 績 割 合	テスト	20%	学習FB方法	成績評価 出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	学習態度・出席率	20%			
	レポート	60%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>60% R<<実働実践型学習>>70% A<<主体的参加型学習>>60% G<<海外体感型学習>>50%				
講師プロフィール	高等教育機関での美術系科目及びインテリア関連科目教育歴30年以上				

## シラバス

科目名	積算概論		担当者名	高井 英光	
学 科	建築学科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	必修	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	建築およびインテリア業界における積算業務の考え方を学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	建築数量積算基準にもとづく土工、躯体、仕上げの数量を、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造の設計例を用いて学ぶ。				
授業概要	「積算概論」では、工事費の構成、積算に必要な用語、数量積算の計算の仕方や資料の収集分析の基礎的な手法を習得し、建築生産における計画、設計、施工の各過程での費用予測・分析法を学ぶ。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション	19		
	2	積算の目的、積算と見積	20		
	3	積算業務の分類、積算の種類	21		
	4	積算の作業工程、積算の要点	22		
	5	建築数量、単位の原則	23		
	6	部分別積算1 土工事、地業工事	24		
	7	部分別積算2 基礎のコンクリート工事	25		
	8	部分別積算3 基礎の型枠	26		
	9	部分別積算4 平屋建てのコンクリート量	27		
	10	部分別積算5 平屋建ての型枠量	28		
	11	部分別積算6 基礎の鉄筋量	29		
	12	部分別積算7 はりの鉄筋量	30		
	13	部分別積算8 柱の鉄筋量	31		
	14	部分別積算9 壁の積算	32		
	15	部分別積算10 スラブの積算	33		
	16	総合計算1	34		
	17	総合計算2	35		
18	確認テスト・まとめ	36			
成績割合	テスト	30%	学習FB方法	単元ごとの小テスト 前期試験	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	40%	成績評価	出席率80%以上S:90~100点、A:80~89、B:70~79点、C:60~69点、D:59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40% R<<実働実践型学習>>40% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	一級建築士事務所所長 一級建築士 大学院 博士課程終了 全日本建築士会 1級建築士講座講師				

## シラバス

科目名	建築施工		担当者名	高井 英光	
学 科	建築学科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	8単位 2学年	開 講 期 必・選	必修	授 業 時 間 数	144時間
授業目的	建物を完成させるために必要な知識を学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	建築物を完成させるために経る様々な工程を知り、高品質、高性能の建物を完成させる施工技術を学ぶ。				
授業概要	建築現場における実践的な問題を中心に、問題点を事例から取り上げ検証する。 適宜、他の科目との関連を考慮し、授業を進める。 また、JASSや各種基準の改定について注意し、正しい知識の習得を目指す。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション	19	木工事の材料、木造の加工、造作工事、枠組壁工法	
	2	施工計画、工程計画	20	メンブレン防水工事、シーリング工事	
	3	現場管理、安全管理、材料管理、品質管理	21	左官下地、塗り工事、吹付け工事	
	4	申請・届出・手続、各調査	22	タイル工事、石工事	
	5	仮設工事の要点・種類、仮囲い・仮設建物等、足場、安全施設等	23	塗装の種類と特性、素地ごしらえ、工法	
	6	土工事:地盤調査、土工事、地業工事、杭工事	24	建具工事	
	7	鉄筋の種類、加工・組立	25	ガラス工事	
	8	鉄筋の定着・継手	26	内装工事	
	9	型枠計画と設計、型枠の材料	27	断熱工事等	
	10	型枠の加工・組立、解体、特殊工法	28	給排水衛生設備工事	
	11	コンクリートの材料、用語、調合	29	その他の設備工事、建築と設備の関連工事	
	12	コンクリートの製造、運搬・打込	30	屋根工事	
	13	養生	31	金属工事	
	14	コンクリートの品質管理、試験方法、各種コンクリート	32	施工用語・施工機械器具	
	15	鉄骨の材料、工場作業、接合、現場作業、耐火被覆	33	積算	
	16	補強コンクリートブロック工事、ALC工事、れんが工事	34	縄張り・やりかた等、各種測量	
	17	木工事の材料、木造の加工、造作工事、枠組壁工法	35	契約・仕様書	
	18	確認テスト及び解答解説	36	確認テスト・まとめ 解答解説	
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	前期および後期試験	
	学習態度・出席率	25%			
	レポート	25%	成績評価	出席率80%以上:S90~100点、A80~89、B70~79点、C60~69点、D59以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>30% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	一級建築士事務所所長 一級建築士 大学院 博士課程終了 全日本建築士会 1級建築士講座講師				